

# ベルリンの音楽劇場における 教育・文化交流プログラムの設計

渡 邊 均

A Designing of an Educational/Cultural Exchange Program at a  
Music Theater in Berlin

Hitoshi Watanabe

## はじめに

2016年4月27日～5月7日<sup>1)</sup>まで本学学生10名<sup>2)</sup>を引率し、ドイツの首都ベルリンで開催された芸術教育研修プログラムに参加した。この研修プログラムは、筆者が2014年8月14日～翌年9月1日までベルリン国立歌劇場青年国立歌劇場部門<sup>3)</sup>客員研究員として在外研究に取り組んだ際に構想し、本年実現したものである。ベルリン芸術大学芸術教育コース<sup>4)</sup>とベルリン国立歌劇場青年国立歌劇場部門に実現のために協力頂き、さらに一定数の学生の参加希望と本学2016年教育インキュベートプログラム<sup>5)</sup>による財政的な補助を頂いて実現した。

目指していた本年度4-5月期のプログラムは完了したが、本プログラムに関与した三者としては、本年度の実施は今後継続するその協同的な取り組みのパイロットプランであるとの認識であり、今後、さらに関係各方面と協力しながら継続的な展開を期待しているものである。しかし次年度以降への継続展開のためには本年度の実施内容の焼き直しでは叶わない。現時点で浮上している問題、そして今後遭遇するであろう諸問題への対策を早速講じて行く必要がある。

今回のパイロットプランが最終的に実施可能となったのには、その組み立ての上で数々の偶然と協力が寄与していたことも間違いない。来年度以降の実施

に向けて諸問題に当たって行く前に、後々、本年度の実施プランに関して情報を精査することが可能となるよう、2016年度ベルリン芸術教育研修プログラムの設計に関する情報を取り纏めておきたい。

## 1. 研修プログラム構想の契機—Reiner O. Brinkmann 氏からの課題

2014年8月から2015年9月にかけての在外研究時に筆者は主に二つの視点からベルリン国立歌劇場での実地調査に取り組んだ。一つは、大別するとプレミア作品公演、レパートリー作品公演、特別演奏会、Werkstadt<sup>6)</sup>公演、その他ワークショップ等、といった多様な事業を複層的に展開する歌劇場の営みを、公演事業組織という視点からではなく地域の教育拠点としてどのような機能を備えているか、その姿を捉えようとするものであった。そしてもう一つは、主に次世代教育部門で展開されているワークショップの活動の中に音楽・演劇教育法として興味深いものとして見いだした「音楽+演劇の場面解釈法」<sup>7)</sup>の実像を捉えるべく、その方法論を学ぶことであった。

一つ目の課題については、まさに一年間の劇場公演事業のすべてをつぶさに見て回ることになり、事業の多様性故にそれだけでも相当のエネルギーを必要とする課題であった。その内容は今回の報告の趣旨とは関係ないのでここでは触れない。

二つ目の課題に取り組む機会として青年国立歌劇場の主任で、研究組織(SIvonM+T)<sup>8)</sup>の主宰でもあるReiner O. Brinkmann氏より、歌劇場で提供されている指導者向けの講習に参加が認められ、シーズンを通して指導法を学ぶ機会を得た。この講習には現役の小・中・高等学校程度の教師や演劇指導法を学ぶ将来の演劇人など、ヨーロッパ、中東、アジアなどからの受講者が参加していた。1シーズンの間に基礎クラス最低2回(計4日間)、応用Iクラス2回(計4日間)、応用IIクラス1回(計2日間)の受講と課題提出が求められ、筆者は基礎クラス4回、応用Iクラス2回、応用IIクラス1回を受講し最終レポートを提出した。1回のクラスが2日間にわたり、12時間以上かかることから、大学の演習と同等と捉え単位数換算で説明すると、2日間1回の講座が1単位に相当し、年間でのプログラムの修了には最終レポートの単位を1単位と見積

もったとして最低6単位以上が必要となるボリュームの講座であった。

この講座への参加にあたり、2014年9月の時点で、客員研究員として研究するにあたって、講座修了の条件としての課題以外に共同研究・事業としてのワークショップの構想が投げかけられた。2014年のブランデンブルグ州ベルリン地区の音楽教育学会のテーマが“Musik verbindet”であったことも関係しているかもしれないが、共に音楽教育の研究者として取り組むべき課題として、何らかのテーマで日独の学生が互いに結びつき、それぞれの内面に切り込んで行ける活動を実現しようという投げかけであった。そもそもの発端はこのReiner O. Brinkmann氏からの課題の提示であった。

## 2. 研修プログラム構想の浮上

Brinkmann氏の課題の投げかけに対して、筆者は当初2015年9月までの在外研究期間（シーズンを考えれば実質6月末まで）の中での実現を考え、日独の人的交流の実現のためには、現地の日本人関係諸機関（日独センターや日独協会）を通しての参加者集めや会場手配を検討していた。しかし最も問題となったのは、2014-2015シーズンにおいてワークショップとして日独の交流を設定するのに適当な歌劇場のプログラムが用意されていないことであった。当該シーズンの後半に細川俊夫作曲オペラ「松風」（ハンナ・デュブゲン台本・サシャ・ヴァルツ演出）が上演されることになっていたが、これは2011年に初演されたばかりで、ワークショップの題材とするには現時点ではあまりに資料に乏しく、ワークショップに適さないとの判断であった。

内容および日程的に2014-2015シーズンにおいて展望が開けないうちに時が経過する中で、構想がより具体的に浮上する契機になったのは、同時期に指導者向けの応用Iクラスに参加されるようになったAya Wilde氏との協力関係の中で、Brinkmann氏と筆者の抱える課題に関して賛同を得られたことと、2015-2016シーズンの公演プログラムの発表により、具体的な題材に関して焦点が絞れるようになったことであった。

Aya Wilde氏は日本の音楽大学を卒業後、ドイツの音楽大学でフレンチ・ホルンの演奏法を学び、これまで10年にわたってベルリンを拠点に演奏活動（ベ

ルリン国立歌劇場客員ホルン奏者)と教育活動(公立音楽学校教師)に携わっており、2014年から開設されたザルツブルグのモーツアルテウム大学での音楽演劇教育学の講座(講師陣はBrinkmann氏他)の一期生でもある。講座の主題“Musik vermittlung”を日頃の教育活動で実現すべく、「音楽+演劇の場面解釈法」を学んでおり、劇場で開かれている指導者向けのワークショップにも参加されるようになり、応用I・IIクラスでは、筆者とともに課題に取り組むパートナーとなっていた。

4月後半から5月にかけて応用Iクラスでの課題への取り組みが佳境を迎え、音楽の学習指導法へのビジョンの共有が二人の間で進み中、印象的な舞台を見る機会を得た。2014-2015シーズンの青年国立歌劇場の新作オペラ“Moon Calling”のプレミアム公演(5/6)であった。この公演はBrinkmann氏が前年度9月以降、青年クラブ<sup>9)</sup>の活動をドラマトゥルクとして指導する中で、指導者コースに参加しているメンバーに演出リーダーを任せ、作品を練り上げ上演にたどり着いたものであった。上演には青年クラブの若者の他、歌劇場合唱団の指揮者Flade氏他プロの演奏者・スタッフも加わり、一般の公演と同様にチケットも販売されて開演された。この上演を観た筆者とWilde氏の二人は、この環境を日本の若者に感じさせたいという思いを強め、ちょうど4月に発表されたばかりの翌シーズンのスケジュールと合わせ、一つの可能性を思い付いたのであった。

2015-2016年シーズンの4月末から5月初旬にかけて、レパートリー作品としてG.Puccini作曲/J.L.Long原作のオペラ『蝶々夫人』がベルリン国立歌劇場シラー劇場で上演されることになっており、その同時期には青年国立歌劇場の取り組みとして、S.Oliver作曲/T.Mann原作オペラ「マリオと魔術師」が上演されるスケジュールとなっていた。日本の連休に当たる時期に渡航日程を調整することで、一つは日独の学生同士が作品を通して交流を図り互いの内面に迫る芸術活動経験が可能になるのではないか。そしてもう一つは、同世代の普通の若者が歌劇場の上演活動に取り組む姿を、直に日本の学生が目にすることが出来るのではないか。いくつもの貴重な経験が可能になりそうな研修プログラム日程がそこに見え始めて来たのである。

### 3. 研修プログラムの具体化

この2016年4月-5月の研修プログラムの日程案はその日のうちにBrinkmann氏に示し、Brinkmann氏からはその日程案への好感触と、その実施に当たってはドイツ側の交流先の手配についての案が示された。ついでに交流の相手方への交渉のための企画会議を改めて持つことになり、9日後の5月15日(金)昼に三者会談がもたれることになった。

5月15日の三者会談では、現実に2016年に実施された研修に近い内容がその時点で構想されていた(会議のメモも残っているがここでは省略する)。既にBrinkmann氏はベルリン芸術大学芸術教育コースに絞って共同開催を持ちかける意向であった。実施内容と異なる点で上がっていたこととしては、学生の滞在方法としてホームステイを共催相手に求めることと、大使館や日独センターに共同開催をお願いし、会場や経費面での協力を取り付けることが挙っていた。会場や通訳の人的手配も含め、関係諸機関の協力が得られなければ費用が大きいかさむことが予想される。開催場所、費用、人的サポートなど、この時点では克服すべき課題はまだ大きく思えた。

この日の三者会談を終え、各々細部の再検討と関連情報集めに動いた。筆者とWilde氏の課題は在ベルリン日本大使館(5/21)や日独センター(6/22)とのコンタクトや趣旨・内容説明、関連情報の収集であった。大使館としては財政的な支援は出来ないが施設利用や関係機関の紹介などの支援は可能であるとのこと、日独センターとしては「来年度の予算作成の時期を見ながら、また内容的な妥当性も検討しながら継続協議を致しましょう」との返事を得た(その後継続的にメールと電話にて協議する中で、2016年度に関しては協力すべき内容がまだ明確でないこと、内容の公共性の点で十分といえないとして協力関係を見送ることとなった)。Brinkmann氏はベルリン芸術大学側との面談の調整に入り、7月9日(木)に芸術教育コースの担当教員2名と合わせて5者で、最初の企画検討会議を行うこととなった。

7月9日に行われた第一回の企画検討会議では、まず最初にこの企画の趣旨・目的が吟味された。当初、筆者は、趣旨については一定の理解があって、第一回の企画検討会議が執り行われているとの思いももって臨んでいたが、冒

頭は芸術教育コースと国立歌劇場の協力関係の趣旨をどの程度理解し、またどのような思いで当コースに今回の企画を持ち込んで来ているのか、あたかも審査を受けているように詳細に吟味される時間が続いた。その中で後に示す教育インキュベート・プログラムの申請時にも明示した趣旨・目的を伝えることで、ビジョンが明確に伝わった。この慎重な対話の時間を経て、具体的にプランの検討に入ることが出来た。

具体的なプランの検討では、既に構想されていた実行プランに近いものが確認され、学生の手配のための時間割構想、ベルリン芸術大学側がこのプログラムに提供できるもの（特別な支出を伴わない教材、教員、スタッフ）教室および食事等を含めた交流のためのスペースなどが確認された。そして、西南学院側がこのプログラムの実施のために担うべき負担も明確になった。国立歌劇場からの指導者の手配、通訳、当該プログラム実施のために特別に必要な材料等のための予算であった。この時点では財政的な基盤がまだ確立していないので、今後、その確保も含め実施環境を整えて行く中で、随時情報交換しながら、プログラムの実施に向けて互いに準備していくことが約束され、次回の会合を12月後半に持つことが約束された。

7-8月にはWilde氏の紹介により学生の宿泊施設の検討および仮押さえが可能となった。ホームステイの可能性も残しながら、他方でグループで宿泊可能な場所を確保しておく狙いで、適切な物件を紹介頂き、実施期間前半の7泊分の仮押さえを行った。

一旦、筆者の在外研究の修了する2015年の8月までの時点で、財政的基盤の問題を除いてプログラムの概要を組み立てることができ、9月以降、さらにそれぞれに細部を固めていく作業に入った。

#### 4. 西南学院大学教育インキュベートによる財政的支援

在外研究から帰国後、早速、当該プログラム実行のための財政的基盤の確保のため、関係各方面と相談に入った。一つには、所属学部での提案の可能性、そして「ヨーロッパ国際機関研修プログラム」と同様の扱いとすることを探るため国際センターへの提案の可能性、そして教育インキュベートGPへの申請

の可能性、以上の三方向であった。今回、最初から大学間協定を締結して取り組むことも可能性として無くはないが、実績の無いものについての新規予算獲得の問題や、必要となる予算額の問題（学生への補助金を除いても、最低限80万円程度の予算が必要と見込まれる）から、来年度に向けては教育インキュベート GP への申請が妥当ではないかとの手応えを得た。

2016年度は教育インキュベート GP の制度が単年度申請となる形に変更されたため、募集時期も若干後退し、当該プログラムの実施計画を進めるにはスケジュール上タイトであったが、まずは以下の内容で教育インキュベート GP に申請した。

## 1) 教育インキュベートへの申請内容

取組名称	劇場（オペラ・演劇）ワークショップの共同開催による教育文化交流（ベルリン国立歌劇場、ベルリン芸術大学とともに）		
取組単位	児童教育学科 渡邊ゼミ 他	取組責任者	渡邊 均
		取組担当者	渡邊 均
取組期間	2016年度 1年間		
取組経費	1600千円		

### 1. 取組みの概要

#### 【概要】

ドイツ、ベルリン国立歌劇場（Staatsoper im Schiller Theater）の青少年国立歌劇場部門が提供しているワークショップに、ベルリン芸術大学（Universität der Künste Berlin）芸術学部教育コースの学生とともに参加し、作品解釈を通しての文化交流と、展開されている解釈法やワークショップの文化的・教育的意義に関する学術交流を実施する。また、この機会にベルリンの歴史的・芸術的な特色について研修する。

#### 【具体的内容】

##### ■ 事前学習

ワークショップ参加の事前準備としてオペラ「蝶々夫人」をめぐる事前学習を行う。

##### ■ ワークショップ（SIVONM+T） 3日と半日

ベルリン国立歌劇場シラー劇場の青少年国立歌劇場部門が提供するオペラワークショップ『蝶々夫人』にベルリン芸術大学芸術学部教育コースの学生とともに参加。ワークショップの目的に沿ったSIVONM+Tの内容（作品解釈）・方法（教授法開発）を学ぶ。学生間の文化交流・教育事情に関する交流も行う。

##### ■ オペラ作品鑑賞

ブッチャーニ『蝶々夫人』、トーマス・マン“MARIO UND DER ZAUBERER”の他、この期間に市内の劇場で提供されている作品（主要作品のみで12作品）を積極的に鑑賞する。

##### ■ 在留邦人芸術家・ジャーナリストとの交流 半日

現地で活躍されている邦人芸術家、ジャーナリストの方々との交流を通して芸術振興・教育について学ぶ。

##### ■ ベルリン 歴史・文化研修 3日と半日

我が国の近現代史に関わりのあるバンゼー・ポツダム旧市内の研修や、「時代潮流の中心地」と称されるベルリン市内の歴史・文化・芸術、そしてキリスト昇天祭（祝日）ミサ見学など、当地を訪れる意義を深める散策・研修を行う。



## 2. 取組の目的

「音楽＋演劇の場面解釈法（演出法）（以下：SlvonM+T）」は、芸術作品としての音楽・演劇（オペラを含む）とそれを担い又は享受する人々との関係性を問い直し、作品へのより主体的なアプローチの導入を通して人々の芸術作品に対する自己関与の水準を高め、芸術作品の創造・享受の文化的環境を、あまねく変容させていくアプローチである。

このアプローチにおいて、文化間での「誤解」と「理解」を行き来するプロセスは、小さな規模では個人間で、より大きな規模では地域・文化圏別グループの間での認識において、必須のものである。それが作品解釈の新たな次元への到達をもたらし、他方、音楽・演劇があらゆるものを繋ぐ可能性を持つものと信じられる理由でもある。

その文化的認識に立ったとき、過去そして未来において独特且つ重要な関係を築く日独間において、メンタリティでは親近感を感じながらも、多くの点で異なった固有様式（文化）をそれぞれに保有する現在の日独の人々の間で、このワークショップが共有されることは非常に意義深いことである。特に教育の分野でそれが展開されることは、いわずや有意義なことであろう。

芸術の享受・創造・教育の新たな地平を拓き、さらに意義深い独特な両文化（日独）間の関係性の構築を生むべく、次世代教育の担い手であるベルリン芸術大学－西南学院大学学生によるワークショップの実現・維持・発展を目的として取り組むものである。

## 3. 達成目標

【取り組み責任者にとっての達成目標】

■ 西南学院大学とベルリン国立歌劇場とベルリン芸術大学の共同により、2016年「音楽＋演劇の場面解釈法（演出法）（以下：SlvonM+T）ワークショップ」を実施する体制が整うこと（提携文書の調印を含む）。

■ オペラ「蝶々夫人」題材としたワークショップのマテリアル（日・独交流版）の完成。

■ ワークショップ及びその他の研修プログラムの実施支援体制の構築。

■ ワークショップの実施

■ 2017年の実施計画の策定

【参加学生にとっての達成目標】

■ 3.5日間のSlvonM+Tワークショップに参加し修了すること。

■ SlvonM+Tワークショップの中で日本の家族制度の伝統についてプレゼンテーションを行い、オペラ「蝶々夫人」の物語に関係する当時の日本の風土・風習・風俗・文化に関して、ドイツの学生とディスカッションを行い、相互理解の機会とすること。

■ ワークショップの成果を、ベルリン芸術大学の学生とともに現地の小学生を対象として行う半日のセッションの中で発揮する。

■ ベルリンの歴史・文化・芸術的環境に学び、知見を深める。

■ 現地で活躍中の邦人芸術家・ジャーナリストと文化や教育をめぐって意見交換を行う。

■ 研修の後、大学での成果報告会を行う。

## 4. 期待される成果

【取り組み責任者にとっての成果】

■ 日・独の学生交流型のSlvonM+Tワークショップ・モデルの確立

■ 日・独の学生交流型SlvonM+Tワークショップ・マテリアル「蝶々夫人」の完成

■ 西南学院大学、ベルリン国立歌劇場、ベルリン芸術大学のプログラム協定の締結

■ ベルリンへの派遣プログラムを実施する際の支援体制・ネットワークの拡充

【参加学生にとっての成果】

■ 事前学習による日本伝統文化への再認識

■ SlvonM+Tワークショップを通し演劇解釈法・指導法の視野の拡大

■ 現地大学生と共同で行う小学生向けセッションにおける異文化体験（教育活動）

■ 現地でしか得られない歴史・文化・芸術体験



事業の実施計画
<p>&lt;2016 (平成 28) 年度&gt;            参加学生募集：2015 年度中、取り組み承認後直ちに実施。            事前学習：2016 年 2 月に開始。            渡航研修期間：2016 年 4 月 27 日 (水) ～5 月 7 日 (土) (渡航の便を考慮して)            場所：ベルリン市内            対象人数：最大 12 名 (ワークショップの内容及び宿泊受け入れ可能数)            内容 1)：オペラ・演劇のワークショップ (題材：オペラ「蝶々夫人」) を通しての福岡・ベルリン大学生の文化交流 (4 日間)            内容 2)：ベルリン国立歌劇場公演オペラ「蝶々夫人」鑑賞 (5 月 3 日)            内容 3)：現地、日本人芸術家 (歌劇場歌手、演奏家、作曲家) との交流 (1 日間)            内容 4)：現地在留邦人ジャーナリストによるベルリン紹介            関係機関：ベルリン国立歌劇場シラー劇場青少年教育部門 (Junge Staatsoper)            交流学生：ベルリン芸術大学芸術教育コースの学生            その他：自主研修 (市内の歴史的・文化的施設多数)            想定される参加学生：児童教育学科、国際文化学科、他            帰国後報告会：教育・研究推進機構等との協議の上、開催方法を検討            2017 年度の計画策定：2016 年 9 月以降</p>

## 2016 (平成 28) 年度取組経費

### (1) 教育研究経費支出内訳

小科目	見込額	積算内訳	
		主な使途	主な内容
消耗品費	80 千円	準備費用	
通信運搬費	80 千円	用品運搬(航空便)	
印刷製本費	千円		
旅費交通費	540 千円	教員渡航費・宿泊費	5 月, 9 月
業務委託費	2650 千円	旅行代理店、会場手配等	200 千円×12 会場手配及び人員配置
新聞雑誌費	千円		
報酬	650 千円	プログラム開発, 指導, 通訳	ワークショップ指導者, 現地案内, 通訳(2 名)
補助金	600 千円	学生参加旅費補助	50 千円×12 名
小計(A)	4600 千円		

### (2) 人件費関係支出内訳

省略—該当項目無し—

### (3) 設備関係支出

省略—該当項目無し—

### (4) 収入内訳 (収入がある場合)

小科目	見込額	積算内訳	
		主な使途	主な内容
	3000 千円	学生参加費	250 千円×12 名
小計(D)	3000 千円		

## (5) 総計

必要経費(A+B+C-D)	1600千円
---------------	--------

※各小科目の見込額は、千円未満を切り上げて計上してください。

## 2) 教育インキュベート GP 審査時のヒアリング

2016年度の教育インキュベートの審査にあたっては、上記の申請書の他、一度のヒアリングを経て審査が行われ、決定通知を頂いた。ヒアリングにおいて筆者が強調したポイントは、当日配付した以下の資料のとおりである。

<p><b>【学科のカリキュラム関係から】</b>          児童教育学科・社会福祉学科では幼稚園免許・保育士資格必修科目として「保育内容の研究（表現）」を提供しており、そこでは従来から芸術系教員の指導の下、映像やステージを使ったパフォーマンス・アーツ制作によるアクティブ・ラーニングを展開してきている。同科目は児童教育学科の学生にとっては専攻科目による学びが本格化する2年生前期に配置され、取り組み次第で音楽劇が劇的に人間関係を変容させる（Musikvermittlung）効果により、学科の科目群の中でも特に印象深いものとなっている。そこでの学びに関心を持った学生が3・4年生では芸術系のゼミに所属してさらにパフォーマンス・アーツの制作に取り組む。</p>
<p><b>【学科の特色づくりとして：教員養成段階のカリキュラムや教員免許更新講習と関わって】</b>          演劇的手法はどの学校段階にわたっても用いられている手法であるにも関わらず、教員養成の段階で学ぶ機会は用意されていない。その為、教員免許講習等でこの種の講座を用意すると幼稚園から高等学校までの教員から関心が集まる実態がある。アクティブ・ラーニングや演劇ワークショップの導入は、養成段階よりも教育現場での意識や開発が先行している。後追いはあるが、教育基本法の改正及びその後改定された現行の学習指導要領によってコミュニケーション教育として重点的に取り組まれるようになり、演劇ワークショップのファシリテーターの学校への招聘など、文部科学省も文化庁と連携して具体的な施策を講じてきている。学校教育と演劇をめぐるは新たな段階あると言え、児童教育学科の教育に特色を打ち出すためにこの点に着目することは一案である。</p>
<p><b>【渡邊のベルリンでの在外研究】</b>          在外研究で渡邊は従来より関心を持っていたベルリン国立歌劇場の社会的な役割やそのための組織、取り組みを研究すると同時に、教育部門「青少年国立歌劇場」を中心に展開されている演劇解釈・指導法「音楽+演劇の場面解釈法（StvonM+T）」を学んだ。これは「取組の目的」にも示したが、演劇・オペラをめぐる環境を内と外の両方から変えていく潜在能力をもった演劇解釈・指導法で、劇場の舞台制作環境や劇場や大学における教育環境を次第に変えつつあるものである。今まさにヨーロッパの劇場や大学における音楽・演劇教育を変えている取り組みと連携を図ることは、今後の本学科の教育や学生の学びにとって非常に有益である。</p>
<p><b>【大学の教育改革の可能性との関連から】</b>          現在、大学の改組のための視点として新学部構想の他に、シニア向けコースの開設も視野に入れられている。既に、院長・学長に対してはベルリンの芸術的環境から、一例としてベルリン短期滞在を含むシニアコースの案を示した。音楽の分野では現地で活躍する日本人も多く、またポップカルチャーや日本食の広がりもあって日本への関心も高い（国立歌劇場の指導者もその一人）。そのネットワークを活用することで大学の教育改革につなげられる可能性は大きい。その際も、国立歌劇場の教育部門、ベルリン芸術大学は核となる重要な存在である。提携事業を始められるところから徐々に関係性を築くべきで、今回のワークショップの計画はその重要な一歩となることは間違いない。</p>

## 3) 教育インキュベート GP の審査結果

次のような評価と添付されたコメントを得、2016年度教育インキュベート・プログラムの一つとして採択を頂き、これにより財政的基盤が確保できた。

○取組みの概要について 内容や方法は、具体的かつ有効か。	3.40
○取組みの目的について 目的や目標は、具体的かつ明確か。	3.30
○達成目標(評価体制)について 達成度や効果を測る方法や指標が具体的に設定されているか。	3.10
○期待される成果について 「どのような能力をどの程度身に付けさせるか」という学習成果は明確か。	2.90
○事業の実施計画について 目的達成のための実施計画やスケジュール等は具体的かつ妥当か。	3.10
○「教育の充実と強化」への寄与について 他学部等の参考や、教育改革を促す要素があるか。	2.90
合計	18.70
○評価できる点 ・西南にとって新規分野に取り組む点。 ・すでに、現地関係者との打ち合わせが進行しており、計画が具体的で、実現可能性が高い。 ・海外の大学生との交流を積極的に推進しようとしている点。 ・海外で実施されている取り組みに参加できる点。 ・海外の劇場で著名な作品鑑賞ができる点。 ・作品鑑賞に限らずベルリンの歴史、芸術全般に知見を深めることができる点。	
○改善を求める点(理由も簡潔に記載してください) ・学生が自己負担するにしても、費用の総額が学生数に比して高過ぎる。 ・渡航時期が4月下旬から5月下旬となっている。正課授業との調整が必要だと考える。 ・同じ学科内への広がりや参考となる疑問である。 ・事前学習の内容が不十分である。(明確でない) ・期待できる成果が得られるよう十分な事前学習に努めてもらいたい。 ・学生の負担額が高額になっており、参加者が集まるか不安な要素を含んでいる。 ・業務委託費、プログラム開発、指導、通訳に対する支払いの割合が7割を超えており、計画全体が外注による研修旅行企画という印象を受ける。教員が主導的に関わって企画運営する内容に改めるべきであろう。	

## 5. 教育インキュベート GP 申請と平行しての準備について

### 1) 渡航手段の手配について

プログラムの実施時期を4-5月の日本の連休に合わせて予定している。日本の旅行者の増加も見込まれると同時に、ドイツにおいてもキリスト昇天祭の休みと重なり旅行者の増加が見込まれる。渡航費を安価に抑制するためには必然的に早い時期での予約が必要となる。旅行業者によるアドバイスにより12月中旬の時点で大韓航空による福岡-フランクフルト往復旅程(4/27-5/6)で13名分の予約を行った。

### 2) 第二回の企画検討会議 (@ベルリン芸術大学)

7月9日の第一回企画検討会議時に第二回の会合を12月に行うことを予定していた。関係者の日程調整を図り12月23日(水)に第二回企画検討会議を

**Japan-Deutschland-Austausch Madame Butterfly Stand Dezember 2016**

Termin :  
Fr, 29. 4. – Mo, 2. 5.  
Vorstellung 3. 5.

Japanische in der Oper Madame Butterfly, was daran wird als japanisch erkannt, welchen Hintergrund hat es Japanische Wurzeln , Recherche

Präsentation auch an Kinder –Wie vermitteln japanische Studenten für Kinder?

**Zeitplan :****Freitag, 29.04.16 Kennenlernen mit Präsentation mit Schulklasse (6.Klasse)**

9 . 00 – 10. 00 Kennenlernen, alle stellen sich vor  
10. 00 – 12. 00 Präsentation der japanischen Studierenden an Kinder und Studierende  
12. . 00 – 13. 30 kochen  
13. 30 – 15. 00 Mittagessen : gesellig in gdk  
15. 00 Stadtrundfahrt interessante Orte auswählen,  
Kutsche zum Brandenburger Tor? Bus? Trabbi? Rikscha? (Annika recherchiert)  
Treppenhäuser Karl Marx Allee, Bunker, Hochhaus

**Samstag, 30.4. Input Szenische Interpretation/Ästhetische Bildung-gdk**

09. 00 – 13. 00 Staatsoper : Input Rob : Szenische Interpretation das Werk erarbeiten wie stimmig  
13. 00 – 14. 00 Pause  
15. 00 – 19. 00 grund\_schule der künste : Input Tobias/Annika : Ästhetischer Bildungsansatz,  
grund\_schule der künste

Abendbrot

**Sonntag, 1.5. Entwicklung der Impulse für die Kinder**

Praktische Vorbereitung, Entwicklung Impuls für die Kinder der Studierenden für Montag  
Vorbereitung Lunch Box

**Montag, 2.5. Forschungsarbeit mit Kindern**

10. 00 – 13. 00 Forschungsarbeit mit Kindern  
13. 00 – 14. 00 Obento (japanische Lunch Box)  
14. 00 – 16. 00 Auswertung mit Studierenden

**to do :**

Kooperationsvertrag (Vogt)  
Angebot Tobias Reiser (Vogt)  
Mail-Austausch über Leistungen (Alle)  
Finanzierungsplan (Watanabe) (Honorar Tobias Reiser, Honorar Brinkmann, Material, Essen)  
Organisation Schulklasse (Vogt)  
Paket/Brief als Einladung an Schulklasse (Watanabe)

ベルリン芸術大学で行った。その内容を芸術教育コース教員 Annika Vogt 氏がまとめたものが前掲の内容である。この時点では、まだ教育インキュベート GP の審査が進行中であるため、現在計画中のプランは仮決定の内容としている。1 月末の審査発表を経て、計画実施の最終判断を行うものとした。

## 6. 教育インキュベート GP 採択を経て計画の実施

### 1) 参加者募集について

2016年度教育インキュベート GP の採択が決定すると同時に2月1日より15日まで2週間まで学内 SAINS ポータルにて参加者の募集を行った。国際機関研修プログラムの募集に際してもぎりぎりの段階でキャンセルが発生する様子が見られる。ワークショップの内容の関係上、最終的には必ず10名の学生の派遣を確保したい。そこで、募集定員は12名とした。募集案内の内容は以下の通りである。

#### 劇場（オペラ・演劇）ワークショップの共同開催による教育文化交流 （ベルリン国立歌劇場、ベルリン芸術大学とともに）

##### 【本研修プログラムについて】

この度、ベルリン国立歌劇場次世代教育部門とベルリン芸術大学芸術教育コース及び本学の提携により、標記の研修プログラムが実施されることとなりました。この分野において世界的に見ても随一の歌劇場や大学と共同の教育プログラムとなります。ヨーロッパの芸術実践・教育実践の現場で現在注目されている音楽劇解釈法・指導法の最先端の取り組みについて、文化や教育に熱意をもって学んでいる現地学生と、実際に小学生を前にして実践的に学ぶことのできる機会です。音楽や演劇をめぐる社会的・文化的・教育的機能や教育に対するまなざしが一致した三者が今回のプログラムの設計に互いに積極的に関与し、さらに周囲からの支援も得て極めて魅力的なプログラム構成となっています。

さらに現地学生との交流の機会や自主研修の時間も十分に確保され、あのベルリンの豊かな歴史的・文化的環境を利用して多に研修を深めることが可能なことも、本プログラムの持つ大きな可能性のひとつです。本学からは教育インキュベート・プログラムとして財政的な支援も行なわれ、参加学生にとってプログラムの内容に比して極めて経費負担の少ないプログラム設計となっていることも魅力です。

関係者の尽力により他の日本国内の大学、音楽・芸術学部・コースに先駆けての優先的に貴重な機会を割り当て頂くことができました。今度は学生の参加者皆さんの力で本学の本研修プログラムの存在意義を高めて下さることを願っています。

【研修期間】2016年4月27日（水）～5月7日（土）11日間（現地9泊）

【研修先】Staatsoper im Schiller Theater Berlin（ベルリン国立歌劇場シラー劇場）  
Universität der Künste Berlin（Haus Bundesallee）（ベルリン芸術大学、ブンデスアレー）

【募集人数】全学部より若干名（児童教育学科の参加者含め遂行人員12名）

【参加費用】実質121,214～150798円  
大学からの参加補助は、実施後に渡航、現地交通費、宿泊費に対して50,000円まで支給（要領収書の原本）。

##### 【滞在期間中の予定】

- (4/27) 福岡-仁川-フランクフルト-ベルリン到着（大韓航空、ICE or 高速バス）
- (4/28) ベルリン市内研修（現地ガイドによる歴史研修）
- (4/29) 現地小学生へのプレゼンテーション、ベルリン市内研修（UdK学生による案内）
- (4/30) 音楽+演劇における場面解釈法ワークショップ（UdK学生とともに）  
夜：オペラ「マリオと魔術師」鑑賞-Werkstadt im Schiller Theater Berlin-
- (5/1) 前日の続きと翌日の対小学生向けセッションの準備（UdK学生とともに）
- (5/2) 小学生向けセッションの実施（ワークショップの成果発表）、まとめのセッション
- (5/3) ※日中市内自由研修※ 夜：オペラ「蝶々夫人」鑑賞-Staatsoper im Schiller Theater Berlin-
- (5/4) ※自由研修（夜：オペラ「魔笛」鑑賞-Komische Oper Berlin- 推奨）
- (5/5) ※自由研修（夜：オペラ「SIMON BOCCANEGRA」鑑賞-Staatsoper im S. T.-推奨）
- (5/6) ※フランクフルト発-帰国（5/7朝 福岡着）  
5月4日朝以降の日程については、参加者の希望により編成

**【宿泊先について】**

5月4日朝までは Berlin Apartment 'Buchholzer Str. 8  
(中央に広いキッチンが配置されたペンション風アパートメントホテル：UdK までは市内公共交通機関で移動)

**【費用について】**(実費：例 1/28日現在) (1€ = 128円として計算)

- (1) 往復航空券：124,430円 (フランクフルト着発場合、空港利用税、燃油サーチャージ込)  
or 166,590円 (ベルリン着発の場合、空港利用税、燃油サーチャージ込)
  - (2) フランクフルトーベルリン間高速バスまたは鉄道往復 (5,376~12,800円)
  - (3) 宿泊 34,560円 (9泊) ※宿泊数人数により変動あり。
  - (4) 市内交通一週間券 3,776円 ※交通切符の買い方はバリエーション豊富。
  - (5) オペラ『MADAMMA BATTERFLY (蝶々夫人)』チケット 無料 (Staatsoper からの提供)
  - (6) オペラ『ZAUBERFLÖTE (魔笛)』チケット 3,072円
- 以上、全員で行動する際に必要となる費用実費 171,214~20,799円 (フランクフルトベルリン間の移動手段により変動。福岡=フランクフルト往復は手配済み。)  
研修実施後に、渡航費、現地交通費、宿泊費に対して 50,000円まで補助金を支給します。  
よって、実際の負担額は約〇〇円です。

**【その他、自主研修時、自己負担によるオプションの計画について一可能(以下例)一】**

- ※世界の至宝ブラシド・ドミンゴ主演オペラ『SIMON BOCCANEGRA』鑑賞
- (5/5他、期間中10作品を超えるオペラ、バレエ、演劇等が鑑賞可能)
- ※ボツダム、バンゼー歴史探訪-遊覧船観光
- ※近隣都市の探訪・・・ハンブルク、ハノーファー、ライプチヒ、ドレスデン (5/5)
- ※キリスト昇天祭の礼拝への参加

**【申し込みについて】**

募集期間：2016年2月1日(月)~2月15日(月)  
申込書提出先：渡邊 均 教授宛メール (h-watana@seinan-gu.ac.jp)  
※別添の申込書に必要事項を記入の上、提出してください。

**【参加対象者決定(書類選考・面談)】**

日時：2月17~19日の間に実施予定(別途対象者に連絡する)

**【責任】**

- ・渡航中・研修中の出来事に関しては、全て自己責任。誓約書を提出する。
- ・人間科学部児童教育学科渡邊均教授の引率、現地支援者よりサポートあり。
- ・3月及び4月に計画される数回の事前学習に参加のこと。
- ・事前準備、勉強会での学習態度が著しく不適切であると判断された場合は、参加資格を取り消すことがある。

以上

学生は後期試験が修了した段階で休みに入っており、且つ募集期間も短いとあって応募状況が心配されたが、4学科の学生18名からの応募があった。極力、ベルリン研修を可能とするために応募者を夏期(13名)と冬期(5名)に振り分けることで、全員の参加が可能になるよう配慮した。3月に入りブリュッセルで起こったテロの影響や4年生の就職活動の影響があり最終的に夏期10名、冬期4名の参加予定となった。

## 7. オリエンテーションと事前学習会について

想定以上の参加希望があった関係で個人面接および夏期・冬期への振り分け作業、最終確認等の作業に時間を要したこともあり、また3月後半はフランクフルトから陸路での旅程の最終確認も含め筆者が渡航したため、最初のオリエ

ンテーションを3月中旬、その後の事前学習会は4月に入ってからとした。各回はほぼ2コマ分の時間を設定して行った。

3月17日(金)	参加者オリエンテーション・事前学習会 『蝶々夫人』とプレゼンテーション課題について、『マリオと魔術師』について ベルリンの中学生への招待状作成について
4月8日(金)	事前学習会 プレゼンテーション課題内容の推敲1 『魔笛』について
4月15日(金)	事前学習会 プレゼンテーション課題内容の推敲2
4月21日(木)	旅行者オリエンテーション、危機管理オリエンテーション
4月22日(金)	事前学習会 プレゼンテーション課題発表練習
4月25日(月)	事前学習会 プレゼンテーションの最終原稿の提出

事前学習会における最も主要なテーマは、「何が作者をして『蝶々夫人』の創作に掻き立てたか」と題して、作品から当時の外国人が日本の何に興味を示し、魅力を感じ、そして作品の創作に強い影響を与えたと推察するか、参加者10名で異なるテーマ設定をして、ギャラリー・トーク式のプレゼンテーションを作成することであった。各メンバーが互いに調整しながらピックアップしたテーマは次の通りである。

1) 日本古来の神道と仏教, 2) 家系・家を重んじる習慣, 3) 道・品格へのあこがれ・追究 4) 時代背景：開国, 5) 時代背景：没落士族, 6) 着物・家紋・蝶々さん, 7) 結婚・花嫁行列, 8) 坂の街：長崎, 9) 日本の建物・家屋, 10) 日本人にとっての桜

ベルリンの大学生10名と第6・7学年の子ども17名を前にして、約100分間でのプレゼンテーションである。後々質問が可能なように、絵や写真がその時間すべて掲示しておけるギャラリー・トーク形式にし、通訳を入れても一人が10分以内で内容をポイントを絞って伝えられるように、繰り返し吟味した。

いずれのテーマも、この作品の創作に当たって深層から関係している重要なもので、改めて日本の歴史や文化・習慣を見直す機会となり、現在の日本人の学生である彼女たちにとっても新たな発見に満ちた事前学習の機会となった。詳細は、学習成果についてまとめる次稿で報告することとする。

## 8. 直前の準備段階における連携作業

1ヶ月前までは参加学生のキャンセルも予想されたので、キャンセル受付最



終段階での内容の確認，そしてそれ以降最終準備段階まで2回のSkypeによる会議を実施して日本側とドイツ側の連携を図った。

まず3月20日過ぎにかわした実施内容に関する契約事項が次頁の通りである(Annika Vogt氏によるメモ)。

そして4月に入り，本学学生のプレゼンテーション準備作業が進むのに合わせて4月11日と22日の2回のSkype会議を経て，さらに実際の実行スケジュールの詳細と4日間の内容に合わせて，日本・ベルリン双方の準備物が確定した。そのスケジュールについてBrinkmann氏によるメモがさらに次頁の以降のものである。

**Vertrag :**

Ich habe mit unserer Kooperationsabteilung über einen Vertrag gesprochen. Wir haben mit Ihrer Vorlage des Memorandums gearbeitet. Bevor sich Frau Karthäuser der UdK an Sie wendet möchte ich vorab einige Inhalte mitteilen.

Wie in unserem Gespräch im Dezember vereinbart wird die Universität der Künste meine Arbeitsstunden, die Räume und die in der Grundschule der Künste vorhandenen Materialien sowie die Organisation des Rahmenprogramms in Berlin in das Projekt einbringen.

Die Seinan Gakuin Universität wird die Kosten für das darüber hinaus benötigte Material (wir haben kalkuliert: wäre eine Obergrenze bis 800€ möglich?) und die Verpflegung während der Workshops (Essen, Obentos) übernehmen. Erstattungen werden über die Seinan Universität geregelt (*d.h. sie müssen Rechnung aus dem Projekt per Rechnung erstatten können*).

Visa, Unterkünfte, Reisekosten, Versicherungen, Verpflegung vor Ort (inkl. Lunchboxes), Kosten für Dolmetscher liegen in der Verantwortung der Seinan Gakuin Universität.

Wir betrachten das Projekt als ein Pilotprojekt der Zusammenarbeit (Laufzeit 29.-4. bis 30. 5. 2016). Exchanges, wie sie im Memorandum stehen, werden in diesem Vertrag zunächst noch nicht auftauchen.

Gerne überlegen wir gemeinsam im Anschluss an das Projekt, in welcher Form eine weitere Zusammenarbeit aussehen könnte.

**Schule :**

Die Schule, mit der wir kooperieren heißt Heinrich-von-Stephan Gemeinschaftsgrundschule. Es kommen ca. 16 Schüler\*innen der 7./8. Klasse (13/14 Jahre). Die Namen kann ich Ihnen leider erst Anfang April senden, da zur Zeit Ferien in Berlin sind. Falls Sie gerne vorher die Einladung (ohne Namen der Schüler\*innen) schicken wollen, könnten Sie sie an die Schule senden.

**Frau Flores Vinueza**

% Heinrich-von-Stephan Gemeinschaftsgrundschule  
Neues Ufer 6  
10553 Berlin

Wenn sie dies vorhaben, teilen Sie mir es bitte mit, damit ich Frau Vinueza vorbereiten kann.

**Studierende :**

Bisher haben sich bei mir 6 Studierende angemeldet. Es werden aber sicherlich noch mehr. Sie studieren Lehramt Kunst oder Musik. Hier der Text aus dem Vorlesungsverzeichnis :

Ich habe das Seminar für die UdK Studierenden "Oper remixed – in Kooperation mit der Jungen Staatsoper und der Seinan Gakuin University, Japan" genannt.

"Das Seminarprojekt ist eine transkulturelle Begegnung von Studierenden aus Japan und Studierenden der UdK. Die Oper „Madame Butterfly“, die japanische Motive aufgreift soll in einem Zusammenspiel der Szenischen Interpretation und dem Konzept der Grundschule der Künste befragt werden. Die Verknüpfung wird dann mit Kindern einer 7./8. Klasse ausprobiert.

Zum Programm gehören auch ein kulinarischer Austausch und ein gemeinsamer Besuch der Inszenierung in der Staatsoper."

**grund\_schule der künste**

**Oper remixed (in Kooperation mit der Jungen Staatsoper und der Seinan Gakuin University, Japan)**

Termin : Fr, 29.4.- Mo, 2.5. , Vorstellung 3.5.

Das Seminarprojekt ist eine transkulturelle Begegnung von Pädagogikstudierenden aus Japan und Studierenden der UdK/gdk. Die Oper „Madame Butterfly“, die japanische Motive aufgreift soll in einem Zusammenspiel der Szenischen Interpretation und dem Konzept der grund\_schule der künste befragt werden. Die Verknüpfung wird dann mit Kindern einer 6. Klasse ausprobiert.

Zum Programm gehören auch ein kulinarischer Austausch und ein gemeinsamer Besuch der Inszenierung in der Staatsoper.

**Zeitplan :**

**Freitag, 29.04.16 Kennenlernen mit Präsentation mit Schulklasse (6.Klasse)**

9.00–10.00 Nur Studiernede : Kennenlernen, alle stellen sich vor  
Partnerschaften herstellen

10.00–10.30 Einrichten der Räume mit Staffeleien usw.  
Hitoshi + Studenten bereiten vor

10.30–12.30 Präsentation der japanischen Studierenden an Kinder und Studierende  
Tobias klärt mit Lehrerin Anfangszeit

12.00–13.30 Kochen  
Studierende, die nicht beteiligt sind, zeigen ihren PartnerInnen die Hochschule  
Miso-Suppe von Studierenden, Sushi vom Caterer

13.30–15.00 Mittagessen : gesellig in gdk

15.00–18.00 Stadtrundfahrt, interessante Orte auswählen  
Vorbereitung durch Tobias – Ausflug im Westteil der Stadt zu Fuß?  
Aya klärt mit Herrn Nakamura, dass es keine Überschneidungen gibt.

19.30 Ballett

**Samstag, 30.4. Input Szenische Interpretation/Ästhetische Bildung-gdk**

09.00–13.00 Staatsoper : Input Brinkmann : Szenische Interpretation  
Übersetzungen AYA + Kollegin

13.00–15.00 Pause  
Mittagessen in der Kantine der Staatsoper : 3 Gerichte am Tresen(Suppe, vegetarisch, Fleisch) -  
Bezahlung : individuelle oder ...

15.00–18.00 grund\_schule der künste : Input Tobias Daniel Reiser und Conrad Rodenberg (Anika Vogt) : Ästhetischer Bildungsansatz, grund\_schule der künste

Planung Rob + Tobias :

Methodische Inputs zu folgenden Bereichen :

- Standbilder bauen
- Sprichwörter darstellen (Hana yori dango = Praktisch geht vor Ästhetik)
- Lieder (jap/dt) in Handlung umsetzen : zuerst in Ländergruppen, dann im Austausch – jedeR soll ein Lied in der anderen Sprache lernen.
- Klangreise : ohne Inhalt, einen Parcours bespielen, durch den die anderen durchgehen und hören (blind). Wechsel in zwei Gruppen

- Handlung erfinden und in Klänge umsetzen. Als Hörspiel den anderen vorspielen, mehrere Kleingruppen
- Figuren : Malen von Figurinen
- Schrift : jap/dt. auf großen Rollen mit Farbe das Wort BUTTERFLY schreiben, evtl. weiter gestalten
- Soziogramm : gesellschaftliche, kulturelle, politische, individuelle, soziale Gesichtspunkte zu einem Sachverhalt/Thema visualisieren mit Personen + Sprache

Kleingruppen oder Partnerschaften gehen Essen in Charlottenburg. Liste Imbisse macht Moritz  
Vorbereitung für Sonntag (Leitungsteam)

### **Vorstellungsbuch „Mario und der Zauberer“**

Geld der dt. Studierenden – wer sammelt ein? Tobias klärt

### **Sonntag, 1.5. Entwicklung der Impulse für die Kinder**

10.00–17.00

Praktische Vorbereitung, Entwicklung Impuls für die Kinder der Studierenden für Montag

Mittagessen : Va piano (ab 11 geöffnet), Spice India (Umland 161), diverse dort und am Ludwigs-kirchplatz

Themenfelder um die Figuren der Oper herum :

- Onkel Bonzo : Shintoismus/Buddhismus
- Mutter von CCS und Kate Pinkerton : Familie in Japan + Amerika (dt???)
- Goro : Nakodo (Trauzeugen) – Heiratsvermittlung
- Cio Cio san + Suzuki : Geisha-Kultur + Herrschaft-Diener-Verhältnis
- Yamadori : politisches System in Japan im 19. Jhd.
- Pinkerton + Sharpless : Amerika, Länderbeziehungen, Diplomatie
- Ohne Person : Japan heute, Musik, Hara Kiri ...

Kleingruppen (jidd) erarbeiten „Spielsituationen“ oder „Stationen mit künstlerischen Aktionen“ zu einem der Themen. Die Methoden von Samstag sollen angewendet werden und die Station minutiös vorbereiten. Jeweils drei SuS gehen in eine Station, Wechsel nach 20 min.

Vorbereitung für Montag (Leitungsteam)

### **Montag, 2.5. Forschungsarbeit mit Kindern**

Sind die Studierenden früher da, um den Parcours vorzubereiten? Kommen 9.30 Uhr, richtig, Aya?

10.00–13.00 Forschungsarbeit mit Kindern

Gemeinsames Wup

Jeweils drei SuS gehen in eine Station, Wechsel nach 20 min.

13.00–14.00 Onigiri (japanische Reiskugeln)

Schüler und deutsche Studierende bringen echte Butterbrote und belegte Brote mit

14.00–16.00 Auswertung mit Studierenden

Rob + Hitoshi haben hier den Hut auf?

### **Dienstag, 3.5. Opernbesuch**

Treffpunkt, Abschied danach, evtl. in der Bar Eleonora Duse – Rob fragt Team  
Ermonela Jaho treffen???

## 9. おわりに

実に直前の22日のSkype会議まで実施プランが吟味され、27日には渡航を開始し、スケジュールへと突入していった。ここまでのどの段階における作業が滞っていても、また共通理解が進んでいなかったとしても、今回の実際の研修において様々な問題やフラストレーションが生じる結果となっていただろう。実際に何がそこで生じていたか、詳細についての報告は稿を改めることとするが、今回携わったメンバー各位がそれぞれに大きな達成感と、行ったことの意義の大きさを十分に感じてそれぞれの本来の持ち場へと帰って行った。

その後、ベルリン芸術大学の芸術教育コースのHPにすぐさま報告が掲載された。ここにHPアドレスを留め置き<sup>10)</sup>、次稿での実際の活動報告はベルリン芸術大学、芸術教育コースの報告内容からスタートしたい。

ここまで記述して来た今回の構想・計画の進め方を見直すと既に、次年度の計画の際に見直すべきポイントはいくつか明らかになっているように思う。次稿では活動の実際から見えてくるポイントと合わせ、次年度以降のプラン設計への改善点を浮き彫りにしたい。

## 註

- 1) 4月末から5月初頭にかけての連休と重ねることにより、10日間だが授業日は月、水、木、金曜日それぞれ1日限りの欠席にとどめた。
- 2) 児童教育学科8名、社会福祉学科1名、商学科1名。
- 3) Junge Staatsoper
- 4) grund\_schule der Künste
- 5) 2015年度後期に募集が行われ2016年1月末に採択(6件)が決定した2016年度単年の教育インキュベートプログラム。
- 6) 工房の意。現在の劇場 Schiler Theater に併設されている100程度の収容が可能なスタジオ。現代の実験的な作品の他、若手演奏家による小品の上演、青年国立歌劇場の作品の上演が行われる。
- 7) szenische interpretation von Musik+Theater
- 8) szenische interpretation von Musik+Theater
- 9) der Jugendklub der Staatsoper 青年合唱のメンバーを含み、青年国立歌劇場の作品上演に向け活動する団体。

- 10) ベルリン芸術大学芸術教育コース “grund\_schule Kunst bildung”より。HP (<http://www.grundschulekunstbildung.de>)

西南学院大学人間科学部児童教育学科